

先輩インタビュー — 新人が聞いてみました! —

入局1年目の「新人さん」が先輩たちにインタビュー！
仕事内容や衆議院事務局の魅力はもちろん、職場の雰囲気や繁忙期と閑散期の違いなど、受験生が気になるあれこれを探ってきました！

令和5年入局の永渡貴也です。
庶務部人事課で採用を担当しています。
このパンフレットを通じて、
皆様が少しでも衆議院事務局に
興味をもってくださると
嬉しいです！



インタビューに答えてくれた先輩職員の皆さん



藤井 光毅
令和2年入局
秘書課副議長次室



玉木 敬子
令和2年入局
調査局内閣調査室



眞鍋 克弘
令和4年入局
委員部第二課
(内閣委員会担当)



齋藤 花音
令和4年入局
国際部渉外課

現在の業務内容について教えてください。

藤井 私が所属する秘書課は、衆議院議長と副議長及び事務総長の活動を補佐する部署です。正副議長が出席する式典や宮中行事に関する準備、国内外の賓客を招待して行うレセプションの準備、さらには議員の身分に関する業務等を行っています。

永渡 藤井さんが所属する副議長次室の業務はイメージが難しいのですが、具体的にどのような仕事ですか。

藤井 副議長次室の業務内容は、副議長秘書とともに、副議長の活動を支えることです。私の仕事は、副議長のお客様への対応や副議長秘書が必要な資料の作成、各部署への情報共有等です。表敬訪問の対応をした際は、私が撮った写真を副議長から直接褒めていただけました。



【開会式に臨まれる海江田副議長と】

眞鍋 私は委員部で内閣委員会を担当しています。委員部は、委員長を補佐して、委員会を運営面から支えている部署です。内閣委員会の担当は4人いますが、私が一番の若手です。委員会に必要な書類の作成をはじめ、委員室の準備・片付けや委員会を開く際の関係各所への連絡等が主な担当業務です。

齋藤 国際部は、一言でいうと、議員外交の補佐をしています。私は渉外課でアジア班を担当しています。渉外課のメインの業務は、衆議院議長による外国議長一行の訪日招待です。衆議院と参議院への訪問をはじめ、天皇陛下や内閣総理大臣など国内要人の訪問や、空港での出迎え及び見送りといった一行滞在中の調整を行い、同行もします。その他にも日常的な業務として、正副議長への外国要人の訪問対応や書簡の受領・発出、英語での国会参観などを行っています。

玉木 内閣調査室の業務は、内閣委員会所管の公務員制度、経済財政、個人情報保護、警察などについての調査業務です。具体的には、委員会では法案が審査される際の参考資料の作成や議員事務所からの依頼への対応等を行っています。

衆議院事務局を知ったきっかけや志望理由、最終的な決め手を教えてください。

眞鍋 インターネットで調べて、衆議院事務局の存在を知りました。子供の頃からニュースを通して国会を見ていて、テレビの中の世界だと思っていました。中学生時代に東京を旅行した時に国会見学をして圧倒されたという経験から、国会は憧れの存在でした。そのため、一番の決め手は「国会で働きたい」という気持ちです。これが核としてあったからこそ、就職活動中に最初から最後までぶれずにいられたのかなと思います。

永渡 眞鍋さんは、総合職での入局ですが、総合職を目指された理由などはありますか。

眞鍋 正直、総合職として合格するとは思っていなかったのですが、チャレンジはしようと思えました。

齋藤 公務員試験の情報雑誌の中で事務局職員について紹介されていて、調べ始めたのがきっかけです。人生の中で仕事に割く時間はとても多いので、誇りをもって働ける仕事に就きたいと思っていました。事務局のパンフレットや説明会、面接を通して、職員の方が仕事に誇りと責任をもって取り組んでいるということを感じました。また、調査業務や会議運営、国際関係等、多種多様かつここでしかできない仕事があり、学べることが多い職場だと思い、入局の決め手になりました。

玉木 きっかけは、大学の先輩に国会職員になった方がいて、立法府の事務局の存在を知ったことです。それまでは、公務員になること

をあまり考えていなかったのですが、公務員を目指すきっかけにもなりました。大学で法律を学んでいたのも、法律を身近に感じていて、あらゆる法律の制定改廃が行われる場である国会をサポートするということに大きなやりがいを感じられるのではないかと思います。私は調査業務に興味があったのですが、多様な業務があり、自分の興味のある分野以外でも活躍する場所があるということが決定打になりました。

藤井 前職が不規則な勤務形態で、私生活の自由がなかなか取れなかったところ、事務局に勤める知り合いから、ワークライフバランスが充実していると聞きました。転勤がないことや育休取得率の高さ、その他の休暇の取得についても上司からの積極的な声掛けがあるという点に魅力を感じました。その上で、国会見学をしたことで、よりここで働きたいと強く感じるようになりました。

永渡 衆議院事務局の試験の情報は少なかったと思いますが、皆さんはどのように対策しましたか。私は面接の前に憲法問題について調べて臨んだ記憶がありますが…。

藤井 とりあえず、国会に行きましたと面接で言いたかったので（一同：笑）、国会見学に行きました。

玉木 当時、参院選などがあったので、国会関係の時事問題をなるべく押さえていました。

事務局に対して「お堅い」イメージを持つ受験生も多いと思いますが、職場の雰囲気はいかがですか。

眞鍋 外からイメージされる堅さは正しいのかなと思います。ただ、その堅さは息苦しいものでも人間関係が悪いというものでもなく、それぞれの職員が誇りを持ちながら、チームとして協力して働いているということなのだと思います。

藤井 秘書課の業務でいうと、国内外から賓客をお招きする際に、喜んでいただけるように相手の立場に立って考えることが多かったり、不測の事態に対しても一丸となって柔軟に対応したりするので、「お堅い」というよりは柔軟な方が多い職場だなと感じました。衆議院事務局全体としては、優しい方が多いです。上司との距離が近く、温かい雰囲気の職場だと思います。入局前のイメージとは大分違いました。

玉木 私は「お堅い」というイメージは入局前に持っていましたが、入局後はそのイメージはなくなっています。もちろん、議員と接する際は緊張感をもって話しますが、職員同士で話す時は堅くなりすぎず、上司の方も話しやすい環境を作ってくださっているのかなと感じます。



齋藤 「お堅い」というよりは、責任感があり、仕事に誇りをもって取り組んでいらっしゃる方が多いという印象があります。私の周りには、外国の政治情勢や語学を積極的に学んでいる、知的好奇心や向上心の高い人が多いと感じています。事務局は研修制度がとても充実していて、社会人になっても学び続けられる環境があるからこそ、向上心の強い人が集まりやすいのかなと思います。私も英語研修を受けており、スキルを磨き続けられる環境だと感じています。

衆議院で働く上での醍醐味、魅力は何ですか。

藤井 ニュースで話題になっているような事柄に携われることが魅力的です。令和4年3月に行われたウクライナのゼレンスキー大統領

のオンラインでの国会演説も現場に行きました。テレビ越しではない、生の現場に立ち会うことができ臨場感を味わえました。秘書課は、若手のうちから正副議長が式典等に参加する際に随行する機会があるので、臨場感を味わえる場面が多いと思います。

眞鍋 委員部は、実際に委員室で仕事をするので、論戦を間近で見ながら仕事ができるということが魅力です。世間での注目度が高い法律案を担当した時は、記者や傍聴人も多く、テレビカメラも入っていて、その中で委員会の運営に携わっているのだと思い、誇りに感じました。若いうちからこのような経験ができるということは、衆議院ならではの醍醐味だと思います。

永渡 国会議員とお話する機会はあります。

眞鍋 若手だと少ないかもしれませんが。委員長への説明等は上司がやります。委員会の場で、席を案内する際など接する機会はあります。

齋藤 渉外課では、外国の議員と日本の議員の懇談の場に同席することがあり、ここでしかできない仕事だなと思っています。国会議事堂本館や議長公邸にも業務で入ることもあり、日本の中心で働いていると実感することができます。また、国会の敷地内や周辺に美味しいお店があるので、日々の食事に困らないのも魅力です（笑）。



玉木 議員や秘書に説明や資料提供をした内容が、委員会質疑の場で活かされているのを見ると、国会の審議を内容面からサポートできたという実感が得られます。特に、内閣委員会ではニュースや新聞で取り上げられるような法律案を扱うことがあるので、それもやりがいです。

これまででやりがいを感じたことや大変だったことを教えてください。

齋藤 一番大変だった仕事は、バングラデシュの国会議長一行の訪日招待を担当したことです。業務が非常に多岐に渡る上に未経験なことばかりで、最初は右往左往していました。

永渡 外国から議員が来るとなると、国籍や宗教等のことを考えないといけないと思うのですが、そういった面の苦労はありましたか。

齋藤 バングラデシュだったので、ハラール対応の食事を手配する必要がありました。お店やメニューを決める際は、何度も調整をしました。この時はなかったのですが、お祈りの時間をとる場合もあります。滞在中のことは基本的に国際部が担当しますので、文化や宗教といったことに配慮をする場面もあります。

玉木 よくある業務ではないのですが、令和4年の通常国会中に「議会のジェンダー配慮への評価に関するアンケート調査」があり、議員等に議会におけるジェンダー平等の認識についてのアンケートを行いました。その際に、関係する調査室等の職員からなるプロジェクトチームが作られ、男女共同参画分野を担当していた私も参加しました。IPU（列国議会同盟）が作成した議会のジェンダー配慮への評価のためのツールキットをもとに、どうしたら回答を得られるかを探りながら調査票を作成しました。その後、調査結果をまとめた報告書の中の参考資料も作りました。大変でしたが、勉強になりましたし、新聞等でも取り上げられたので、やりがいがありました。

先輩インタビュー — 新人が聞いてみました! —

藤井 国会議員や議員秘書といった普段関わることがない方と接することは、最初はどのようにい分からず大変でした。経験を積んで、また、先輩の背中をみて徐々に学んでいきました。

眞鍋 通常国会で注目を集めた、いわゆるLGBT理解増進法案は、どのような議事になるのかや日程等の見通しが立たなかったため、準備をどうしたらいいのかという点で悩みました。審査入りから採決まで一気通貫*だったこともあり、ミスができないという緊張感がありましたが、いい経験になりました。

*趣旨説明聴取から採決までを1日で行うこと

現在の部署における繁忙期や閑散期について教えてください。

眞鍋 委員部は国会開会中が忙しいです。内閣委員会であれば、委員会は週2回程度開会されるのですが、委員会前日はどうしても帰りが遅くなってしまいます。一方で、閉会中は基本的に毎日定時に退庁できますし、上司からも休暇の取得を促されます。1年を通してみると、健康面に大きな影響を与えるような忙しさではありません。



永渡 委員部の閉会中の業務を教えてください。

眞鍋 直前まで開かれていた国会で起きた事例の整理をします。また、過去の事例の勉強をし、次の国会への準備を行います。

藤井 委員部に在籍していた際は、勉強はもちろんですが、上司や同期との親睦を深める大事な時期でもあったと思っています（一同：笑）。

玉木 調査局も委員部と同じく開会中が繁忙期です。法案の審査のための参考資料を作成しますし、法案に関する調査依頼も多くなるので忙しいです。閉会中は依頼も少なくなるので、次の国会に提出される予定の法案についての勉強や資料収集をしています。また、議員に配付する内閣委員会の所管についてまとめた刊行物の編纂も行っています。

齋藤 国会日程と国際部の繁忙期はあまり関係ありません。渉外課が担当する外国議長の招待は開会中に行いますので、開会中の方がどちらかといえば忙しいです。議長への要人訪問の予定が複数重なると忙しくなります。業務に余裕がある時は、休暇は取りやすいです。夏季休暇等で1週間程度休む方も多くいらっしゃいます。メリハリのある働き方ができると思います。

藤井 秘書課は、開会中、閉会中問わず正副議長の公務の対応をしていますので、行事等がなければ開会中でも休暇は取れます。例えば、閉会中であることが多い8月は基本的に落ち着いていますが、広島・長崎の平和式典や、15日の全国戦没者追悼式等、正副議長が参加する大切な行事があるので、その準備を行っています。

退庁後や休日はどのように過ごしていますか。

玉木 休日は、職場の先輩や同期と一緒にテニスをしてリフレッシュしています。テニスを退庁後にすることはあまりないですが（笑）。

藤井 退庁後は飲みに行くと気晴らしをします。時間を合わせやすいので、同期と飲みに行くことが多いです。休日はスポーツジムやプールで身体を動かして過ごしています。

眞鍋 閉会中は毎日自炊するようにしています。また、スポーツ観戦が

好きなので、野球や相撲を見に行きます。

齋藤 同期や学生時代の友人とご飯に行くことが多いです。上司と行くこともあります。旅行も好きなので、先日は金曜日にお休みをいただいて旅行に行きました。

永渡 同期というワードがよく出てきますが、同期は大事な存在ですか。

玉木 私たちは入局後すぐにコロナ禍になってしまったので、同期全員が揃う機会はあまりなかったのですが、最近は集まることが増えました。

眞鍋 特に同じ部署の同期は分からないことを聞きやすいので、業務上でも大きな存在です。

最後に、受験生に向けてメッセージをお願いします。

藤井 公務員試験の準備は根気がいると思いますが、学生生活を満喫することを忘れないでほしいです。サークルやアルバイト、長期の旅行など今しかできないことを楽しんでください。衆議院事務局は優しい上司や先輩が多いので安心してください。

眞鍋 納得した上で就職先を選んでほしいです。私自身、きっかけは国会への憧れでしたが、説明会に何度か足を運んでいくうちに働きたい理由が見つかりました。視野を広くして、興味のない分野も含めて様々な情報を集めてみるのもいいと思います。その上で結論を出す、それが衆議院事務局であれば嬉しいです。

齋藤 就職活動中は将来について悩むことも多く、辛い時期かもしれませんが、乗り越えた先には憧れの職場で働く実りの多い日々が待っています。百聞は一見に如かずだと思いますので、積極的に情報を得て、就職先を決めてほしいです。衆議院事務局と一緒に働くことを心より楽しみにしています。

玉木 衆議院事務局には多様な業務があり、具体的なイメージが掴みづらいかもしれませんが、入局してから教えてください。勉強していけばいいと思います。私自身、入局初日は緊張した記憶がありますが、肩肘張らずに自然体でいてほしいです。

永渡 ありがとうございました。

(令和5年8月開催)

私たちと一緒に

国会で働いてみませんか？

